

## 脱炭素事業に関する村民説明会【下生坂区】開催要旨

日 時	令和5年7月19日（水）午後7時～午後8時30分
場 所	下生坂公民館
参加者	24名（村民22名、議員2名）

### 【質問者】

どの太陽光パネルメーカーを使用するか決まっていますか。

### 【村づくり推進室長】

本年度、導入するメーカーや製品等を決定する予定です。

### 【質問者】

基本的に国産の製品はないと思いますので、海外産になるということだと思います。先ほど水の説明の中で、生坂村は安曇野市から水を買っておりお金が出ていているとありましたが、太陽光パネルの原材料であるレアメタルは主に中国産であり、お金が全部中国に流れてきます。村外にお金が出ていくと言いますが、この大きい事業で大きいお金が流れていく先は中国ではないのかと、今の説明ですごく引っかかりました。

### 【村づくり推進室長】

太陽光パネルの設置については外部から調達する資材もありますが、設置後の管理や電気料徴収は株式会社いくさかてらす（以下、「いくさかてらす」という。）が行い、資金が地域内で循環する仕組みを目指します。

### 【質問者】

それは分かりますが、先ほどの水についての説明はない方がいいと思います。もっと莫大なお金が海外に出ていくということですので。国からの補助金は皆さんの税金です。

### 【質問者】

現在、個人や企業で太陽光パネルを設置しているところは、いくさかてらすに移行されるのか、今の契約のままなのか、教えてください。

### 【村づくり推進室長】

事業期間が令和10年度までですが、その期間内に耐用年数が到来するものについては設備更新、令和10年以降に耐用年数が到来するものについては既存設備をいくさかてらすへ譲渡する等の手法によって、電気使用契約の変更が出来るよう対応を検討していきます。

**【質問者】**

私は10年以上前に太陽光パネルを設置しています。当時の買取価格は1kWあたり42円でしたが、現在は7～8円くらいです。村内の全戸が賛成して自宅や倉庫に太陽光パネルを設置した場合、その設備で発電した電気を全部いくさかてらすに譲渡するということですね。結局、お金の流れはどうなるのですか。

**【村づくり推進室長】**

例えば、民家に太陽光パネルを設置する場合、設備はいくさかてらすが所有し設置します。そこで生まれた電気は設置した各家庭で使用し、使用した分だけ電気料金としていくさかてらすにお支払いいただく仕組みです。太陽光パネル等の設備はいくさかてらすの所有物ですので、メンテナンス等も含めていくさかてらすが行い、使用量に応じた電気料金のみ利用者にお支払いいただくものです。

**【質問者】**

設備投資について、利用者は一切負担せず、設置場所を提供すればよいということですか。

**【村づくり推進室長】**

おっしゃる通りです。

**【質問者】**

村内10区が全員賛成の場合、最初に区民全員が賛成した区から着工していくのですか。

**【村づくり推進室長】**

どのように設置工事を進めていくのかについては、今年度皆様の意向を確認したうえで令和6年から令和10年までの間に工事を行う予定です。皆様に同意いただき、できるだけ設置していきたいと思います。

**【質問者】**

自宅の屋根に太陽光パネル・蓄電池を設置した場合と、なにも取り組まずにいくさかてらすと契約する場合は、料金は同じですか。

**【村づくり推進室長】**

敷地内に設置した場合と、敷地内に設置できず遊休地等に設置した発電設備から供給を受ける場合は、電気料金に差をつける予定です。

**【質問者】**

自分の敷地内に設置した方が電気料は安くなるということですか。

**【村づくり推進室長】**

おっしゃる通りです。

**【質問者】**

資料5ページの絵では、地域エネルギー会社を中心にあり中部電力等が一切出てきませんが、中部電力とは完全に縁を切るのでしょうか。また、電気を供給するために既設の送電線を使うのでしょうか。いくさかてらすが設置する蓄電地で全村を賄えればいいですが、天候悪化や災害の発生などによって電力が不足する場合、中部電力を頼ることはできますか。また、既設の送電線はどういう扱いになるのか、教えてほしいです。

**【村づくり推進室長】**

中部電力の既設の電線はそのまま残り、何も変わりません。太陽光パネル・蓄電池で電気を自給自足できればいいですが、万が一電力が不足する場合には、中部電力から電気を調達して皆さんに供給する仕組みです。

**【質問者】**

中部電力からのバックアップは保証されていますか。

**【村づくり推進室長】**

今後、詳細について中部電力と協議を行います。電力が不足する場合の供給については、引き続き中部電力から電気を調達して供給する予定です。

**【質問者】**

オフサイトPPAの場合、1kWの値段は現在の契約より安くないのですか。

**【村づくり推進室長】**

オフサイトPPAの場合、オンサイトPPAで敷地内に設置する場合よりも、送電に係る費用分だけ値段が上がりますが、その場合でも現在の民間市場の電気代よりも安く設定する予定です。

**【質問者】**

契約パターンによって値段が変わるということですね。現在、大体1kW20円ぐらいですが、これよりも安くなるということですか。

**【村づくり推進室長】**

具体的な電気料金の設定については、設備の設置に同意いただける戸数の状況によって発電量や金額が変わってくるため、現時点ではっきりした金額はお示しできません。今後、調査に基づき料金設定について決めていきたいと思えます。

**【質問者】**

いつごろ示されるのですか。

**【村づくり推進室長】**

来年1月から2月に開催する説明会ではお示ししたいと考えています。皆様の敷地内等への設置状況を確認した上で、詳細な試算をお示しますが、現時点では、現在の市場価格より少なくとも1割～2割程度安い価格設定を考えております。

**【質問者】**

電気料金が安くなる期間は、事業期間のみですか。2028年度以降は設定料金が変わるのでしょうか。

**【村づくり推進室長】**

原則として、継続した料金設定です。

**【質問者】**

子育て世代の友人から、子供の面倒を見る必要があり19時から始まるこの説明会に参加することが難しいという声を聞きました。アーカイブ配信等でインターネット上でも閲覧できるようにしてもらえると、子育て世代は隙間時間に見て、深く詳細を知ることができると思えます。

また、オンサイトPPAで小学校や中学校、保育園にも太陽光パネルが設置される計画ですが、資料3ページの図中に保育園は入っていません。保育園に太陽光パネルを設置するという点で間違いはないのでしょうか。

**【村づくり推進室長】**

この説明会後には、太陽光発電の設置について各戸へ個別調査等を予定していますが、今回の説明会を含めて参加できない方もいらっしゃいます。対応窓口については、例えばコールセンターやサイトを設置して問い合わせ等に対応していきます。また、いくさかてらすが設立され、ようやく推進体制が整ってきているところです。今後、皆様の疑問等にお応えできるような体制の構築を検討していきます。

資料3ページの図は概略を示したものです。保育園や小中学校における太陽光パネル設置の詳細について、闇雲に設置するのではなく、園児・児童生徒への配慮に関して皆様のご意見も踏まえ、しっかり設計していきます。

**【質問者】**

保育園の屋根は非常に急傾斜で屋根から落雪するため、降雪する時期は毎年園児が立ち入らないように柵を設置していただいています。今後、検討・協議することはとてもありがたいですが、協議する過程で、他の公共施設と子供を預けている施設は同一視できないと考えています。保育園、小中学校については、保護者にも説明した上で実施していただきたいです。

子供の安全を一番に考えた上で、設備の設置については協議してもらいたいです。協議の日程について、いつごろの予定ですか。

**【村づくり推進室長】**

民家だけでなく公共施設についても、個別の調査を行う必要があります。いくさかてらすにおいて、準備が整い次第、9月頃を目途に準備が整ったところから1軒1軒へ伺いたいと考えております。

**【質問者】**

オフサイトPPAについて、下生坂区内では2ヶ所設置すると計画提案書に記載がありました。私は養鶏業を営んでいますが、鶏の安全を考えたときに、工事の騒音などが産卵に影響する可能性を心配しています。このゼロカーボンに向けた取り組みは、今後化石燃料に頼らない電力を使用したい気持ちがあり賛成ですが、自分たちの生活や仕事に影響することを懸念しています。検討・協議する際には考慮いただきたいと思います。

遊休農地についても9月以降に協議するという話でしたが、各区でこのような集会を開催するのですか、または、区の役員と役場だけで話が進んでいくのでしょうか。

**【村づくり推進室長】**

進め方については各区と調整しますが、これまでの説明会でもオフサイトPPAについては地域としっかりと協議してほしいというご意見をいただいています。自然景観や日照の問題等も含めて慎重に検討します。場所が空いているからいくさかてらすが設置するという形ではなく、地域と必ず協議を行います。

加えて、オフサイトPPAの設置数は民家に設置できる数に応じてその必要数が変わります。どうしても敷地内に設置できない場合は、オフサイトからの供給が必要になるためです。特にオフサイトについては、おおむねこの2年間で協議や調査を慎重に進めていく事業だにご理解いただければと思います。

**【質問者】**

オンサイトの場合、設置面積に上限や下限はありますか。

**【村づくり推進室長】**

企画提案段階では、一般家庭の場合パネルは畳1畳程度のものを16枚、1枚あたり約20kgで、15kW程度を標準として積算しています。

**【質問者】**

より大きい面積を設置した方が電気料金は変わるのですか。

**【村づくり推進室長】**

設置容量は15kW、一般家庭の平均電気使用量を12.8kWと設定しています。各家庭の電力使用量は異なりますので、まず個別に調査し設置について検討してまいります。この際、屋根だけでなく敷地や車庫等、設置可能な場所について、日照条件も含めた個別の状況を調査させていただきます。ご協力お願いいたします。

**【質問者】**

太陽光パネルを設置できる住宅は築50年以内とありますが、今年建てた住宅も50年経過すれば築50年になります。築30年の住宅はあと20年経過すれば築50年を超えます。そのように考えると、最初から乗せない方がいいのではないかと思います。

**【村づくり推進室長】**

住宅の耐荷重など個別の状況に応じて、屋根以外の設置場所・方法について個別に調査させていただきます。

**【質問者】**

設置から年数が経ち、パネルを交換しなければいけなくなった場合、設置場所を変える等を行い、継続させていくということですか。

**【村づくり推進室長】**

耐用年数は25年程度としています。その25年経過後の設備更新はいくさかてらすが行う予定ですが、設置場所については改めて必要に応じて調査し、必要に応じて設置場所の変更を検討していきます。

**【質問者】**

話を聞いていると、生坂村中が太陽光パネルだらけになることを想像してしまいます。景観など、例えば太陽パネルを設置したことによって反射による被害を受けることなどは考えているのでしょうか。

**【村づくり推進室長】**

遊休地等でのオフサイトPPAについて、これまでも自然景観等に関するお話を聞いています。自然景観との調和に向けて設置場所を協議してまいります。

また、屋根や敷地内に設置するオンサイトPPAによる太陽光パネルの設置を予定しているところですが、健康被害について情報収集を行い、影響等についてお示ししていきたいと思います。

**【質問者】**

実質ゼロについて、生坂村は森が多くあり、二酸化炭素の吸収が多いのではないかと思います。最終的に二酸化炭素の排出量と吸収量を相殺してゼロにするということですが、森がこれだけある所に太陽光パネルを設置することはマイナスになるのではないかと思います。生坂村全体でみると、かなり早い段階で良い結果が出るのではないのでしょうか。資料11ページにあるシナリオのうち「生坂村脱炭素シナリオ」では2030年までに2013年比で55%減とありますが、もっと早く実現できそうなイメージを持ちます。この目標の前倒しは検討できないのでしょうか。

**【村づくり推進室長】**

人間が生活する以上二酸化炭素排出をゼロにすることはできません。環境省による「実質ゼロ」の定義は、村内で消費される電力相当分の再生可能エネルギーを地域内で生み出し、地域内で消費することです。二酸化炭素排出量実質ゼロや再生可能エネルギーへの転換を目指して、取り組んでいこうとしているところです。

**【質問者】**

新しい会社は、どこに作られるのですか。

**【村づくり推進室長】**

村民会館の空いている部屋を活用する予定です。

**【質問者】**

株式会社いくさかてらすの事務所を村民会館に設けるとのことですが、社長以外の役員や社員などの人員体制はどのようになりますか。また、会社としてCO2削減に取り組むあまり利益を上げることが二の次になってしまわないか心配です。会社の収益の見通しを教えてください。

**【牛越副村長】**

会社の役員について、代表取締役は藤澤村長、取締役は株式会社松本山雅、平林建設株式会社、合同会社<sup>ヒッタイショ</sup>HiTTiSYO、株式会社エコロミから各1名、松本ハイランド農協と生坂村代表監査員の池本貞夫さんが監査役です。

株式会社ですので利益を出していかなければいけません。村が負担を穴埋めすることは考えていません。いかに利益を出していくかを試算して事業設計しています。

社員について、今後募集する必要があると考えています。発電事業を行う会社ですので電気主任技術者を配置する必要があります。そういった専門職の雇用も計画しています。

**【村づくり推進室長】**

計画段階でもオンサイトPPA事業の投資回収について試算していますが、実際に契約いただける民家の数によって変動があります。他地区からも会社の運営について詳細に説明してほしいというご意見もありました。計画段階だと、村内700世帯のうち400世帯以上から同意いただける見通しです。

**【質問者】**

村内700世帯のうち400世帯というのは、既に同意が取れているのですか。

**【村づくり推進室長】**

今年1年間で個別に意向確認を行いたいと考えています。

**【質問者】**

蓄電池は車が購入できるくらい高額です。村内700世帯分の電力を1台で賄えるような蓄電池は開発されていないと思いますが、どのように考えていますか。

**【村づくり推進室長】**

一般家庭に設置する太陽光パネルと蓄電池の金額ですが、太陽光パネル16枚分で140万円、蓄電池が200万円と積算しています。事業に必要な数量が調達できるよう進めてまいります。

**【質問者】**

一般家庭に設置する太陽光パネルが16枚とありましたが、車庫や物置など敷地内で2か所に分かれても設置できますか。それとも1か所でなければ設置できませんか。

**【村づくり推進室長】**

建物や敷地の状況に応じて個別に調査、相談させていただきます。

**【質問者】**

一般家庭の設置枚数は16枚とのことですが、屋根等に多く設置できる場合にはこれよりも多く設置することは可能ですか。

**【村づくり推進室長】**

太陽光パネル16枚、15kWhの蓄電池を設置すると計画していますが、これは消費電力量に余裕のある設定です。これより大きい17.7kWhの蓄電池を設置する場合、消防



法の規制等があるため、最大でも太陽光パネル16枚、15kWhの蓄電池の設備導入を考えております。

**【質問者】**

村内にペレット製造工場の建設が予定されていますが、ペレットにこだわる理由をお聞きしたいです。

**【村づくり推進室長】**

薪ストーブもありますが、村内は高齢者世帯が多いため、扱いやすい燃料材としてペレットを検討しています。

村内の山林からの木材調達やペレット製造の継続性について、これまでご意見をいただいています。今年度森林に関する調査を行い、ペレット製造や供給体制について検討を行ってまいります。

**【質問者】**

太陽光パネルの設置は無償ですが、ペレットストーブは村民が購入するのでしょうか、それとも無償で設置してもらえるのでしょうか。

**【村づくり推進室長】**

民家へのペレットストーブ導入について、現時点ではっきりと決まっていませんが、購入に対する支援策を検討していきます。

まずは今年度、森林に関する調査を行い村内山林からの材の調達とペレット供給体制を検討して、ペレットが供給できるとなった場合、ペレットストーブの購入支援について併せてお示しします。

**【質問者】**

会社について、合同会社HiTTiSYOとは何ですか。また、事業内容は何か。

**【村づくり推進室長】**

今年5月まで地域おこし協力隊として活動していた元隊員の星野氏が、卒業後に仲間を集めて村内で起業した会社で、企画やプロモーションを行っています。

**【質問者】**

合同会社HiTTiSYOは、どうして株式会社いくさかてらすの株主に選ばれたのですか。

**【村づくり推進室長】**

星野氏は松本山雅とのパイプ役を担い地域おこし協力隊として活動する中で、脱炭素事業の企画段階から関わってきました。今回、合同会社HiTTiSYOから出資について申し出がありました。

**【質問者】**

各区で様々な質問が出されていると思いますが、今回の説明会は、事業実施が決定した後の開催だと思います。計画している事業内容に関する説明会を先に各区で開催してからこの事業を進めた方が、今回出されたような問題を解決した上で進めて行けるのではないかと思います、どのように考えますか。

**【村づくり推進室長】**

これまで対面形式の説明会は設けていませんでしたが、村では区長会や各区の総会、ゼロカーボンフォーラムを開催して説明してまいりました。また、令和6年度の本格着手に向けて、事業内容を180度見直すとか、全くやらないということは難しいですが、村に合った事業内容をしっかり企画設計して、皆様のご意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

**【牛越副村長】**

加えて、環境省脱炭素先行地域づくり事業に採択される前に説明した場合、万一採択されなかった際には絵に描いたぼた餅になってしまい、村民の皆様の混乱を招くと考えました。

環境省脱炭素先行地域づくり事業に採択されなければ国交付金が活用できませんので、事業計画がある程度固まった段階で説明会を行い、変更できるものは対応していきたいと考えました。

**【質問者】**

その旨を断ったうえで説明すれば、村民もあまり混乱しないのではないかと思います。村民全員でなくとも、区の代表者等を集めて説明することもできたと思います。

**【牛越副村長】**

区長には説明しました。

**【質問者】**

一般の村民まで共有されていません。

**【藤澤村長】**

これまで事業計画の概略説明を行ってきました。内容が具体化してきたのは2月の環境省脱炭素先行地域づくり事業計画申請と生坂村脱炭素ロードマップの策定後で、正式に採択され、ようやく説明できる状況になりました。

ゼロカーボンシティ宣言するということは、2050年までにゼロカーボンを達成したいということです。その方針を村民の皆様にお示しし、達成するためにはどうすればいいかについて、生坂村ゼロカーボン推進プロジェクト会議を毎月開催し、経過についても広報いくさか等でお示ししてきました。ゼロカーボンを達成するために、再生可能エネルギーを生坂村でどのように作り出すかについて議論を重ね、最適だと考える計画を申請しました。

生坂村が2050年までにゼロカーボンを達成するための代案を教えてください、それがよければ、我々も検討して進めていくことはやぶさかではありません。

**【質問者】**

私は生坂村に移住して10年程経ちますが、生坂村が環境に配慮した取り組みを行っている情報を聞いたことがありません。

例えば、農業で化学肥料を使用しないとか具体的な取り組みを挙げて、村としてゼロカーボンや環境に配慮した村にしていきたいという思いを村民に伝え、村民への説明などを経て始まった事業であれば理解できますが、突然、令和4年にゼロカーボンシティ宣言をしました。それ以前は、村は環境に関してどのように考えていたのでしょうか。

**【藤澤村長】**

コロナ禍で、村政懇談会が村民会館で昼と夜1回ずつしか開催できなかったことで、十分に説明できなかった部分があると思います。地球温暖化対策でカーボンニュートラルに向けて取り組んでいかなければと思います。長野県は早くにゼロカーボンを宣言したほか、政府もカーボンニュートラルに向けて取り組んでいます。地球規模で取り組んでいかなければなりません。だから急遽、村としてもゼロカーボンシティ宣言をして、今後どうしていくか、この1年間で脱炭素に向けて舵を切ったところです。

**【牛越副村長】**

ここ数年、集中豪雨や様々な災害が多発しています。それを鑑みると、今アクションを起こさなければいけないと行政として考えました。

**【質問者】**

すでに採択された地域は多くあるのですか。

**【村づくり推進室長】**

現在、全国に62地域です。環境省では100を目安に打ちとめるとのことです。

**【質問者】**

採択事例の中には鉄工所などの大企業は含まれていますか。すぐわからなければいいのですが、全体を見たときには大企業やそうした産業の役割を考えなければいけないと思います。

**【藤澤村長】**

大変なことです、その通りだと思います。

**【質問者】**

議事録を作成していると思いますが、これは全て村民に共有されるものですか。他の地区ではこういった質問や意見が出たのか、知りたいです。

**【村づくり推進室\_西村主事】**

地区ごとにまとめるのか、事業分野ごとにまとめるのか、いただいたご意見等の取りまとめ方法を現在検討中ですが、可能な限り全てお示しする方向で考えております。また公表方法も、広報いくさかや村ホームページへの掲載など決まっております。準備が整い次第、皆様と共有させていただきます。

**【質問者】**

併せて、他地区の会場の参加者数や年代別の比率なども知りたいです。

**【牛越副村長】**

年代別の比率は難しいと思います。大まかな内容は村長のブログをご覧ください。

**【質問者】**

インターネットで検索すると生坂村脱炭素ロードマップが出てきますが、これはいつ頃掲載されたものですか。

**【村づくり推進室長】**

2月末に策定した後、3月に掲載しました。

**【質問者】**

工場建設に際しても二酸化炭素は排出されると思います。活用方法が薪であれば二酸化炭素を排出せずにそのまま利用することができます。先ほどの説明で高齢者の利便性のためにという点はすごく納得です。たぶんそれは松くい虫の被害木等、油分を含んだものを燃やすのが嫌だという方が多いからペレット化するという考えもよくわかります。ただ、千曲市などの近隣地域では、モキ製作所という所でそういったものを燃やせるストーブや、耐用年数が長い製品を作っています。だから、ペレットストーブ導入にあたって、製品が国産か海外製なのかが気になっています。結局海外から仕入れた場合、輸送時に二酸化炭素を排出します。そういった輸送時等に生じる二酸化炭素をトータルで見たときに太陽光パネルを導入してもゼロカーボンにはならないとの意見もあります。そういった逆説を唱えている方の話も聞きたいと思います。

**【藤澤村長】**

逆説を唱えている方が、どのように再生可能エネルギーを生み出すのでしょうか。

**【質問者】**

その点についても意見を聞いてみたいと思います。個人の意見ではなく、専門家の方で逆説を唱えている人の意見を聞くこともいいのではないかと思います。キャノングローバル戦略研究所の杉山大志氏などがいます。

太陽光パネルに関する健康被害の話題もありましたが、そういったことを訴えている方の話もぜひ聞いてみたいです。ここでのやり取りではなく、専門家がどう言っているか説明した上で進めていただきたいです。推進している人の意見と反対している人の意見、両方の専門家の意見を聞きたいです。

**【質問者】**

現在計画している小水力発電は、既存の生坂ダムの側に作るのでしょうか。

**【村づくり推進室長】**

東京電力生坂ダムに維持放流水というものがあります。太陽光だけではなく小水力を補完的に活用することを検討しています。

**【質問者】**

小水力発電は太陽光パネルよりも変換効率良い、耐用年数が長いという利点があるようですし、生坂村の風景を損なわずにエネルギー生産できるのであれば、小水力発電の割合がもう少し増えてもいいのではないかと思います。

**【藤澤村長】**

良い場所がありませんでした。村内に沢は多くありますが流量が少なかったり、落差が不足したりしています。

**【牛越副村長】**

生坂ダムの維持放流水を活用した小水力発電が一番現実的でした。生坂村は冬場の渇水期に水がなくなります。一方、東京電力生坂ダムは年間通して冬場でも維持放流水が流れています。それを利用するというのが、今後の維持管理や工事についても良いと判断しました。

例えば、沢を活用する場合は、東京電力生坂ダムで計画しているものと同じ10mの落差を取ろうとした場合、導水路を引く必要がありますし、水害時には荒れてしまいます。沢でやる場合には道水門等を全て直さなければいけません。その点を考慮すると、現実的には東京電力生坂ダムの維持放流水を活用する方法が一番良いと考えました。東京電力生坂ダムの維持放流水以外のものは活用できません。

**【質問者】**

例えば、水道管や農業用水の配管でも発電できるシステムがあります。そういったものを利用すれば、うまく発電できると思います。

**【村づくり推進室長】**

農業用水路の活用も調査検討しましたが、活用は難しいという結論になりました。

**【質問者】**

区内の中山間総合整備事業で管理している整備した田んぼは、今何も耕作していません。景観の問題もありますが、太陽光パネルを1軒1軒の民家に設置するよりも、田んぼに大きく設置した方が発電量も多く、管理も効率的だと思います。中山間総合整備事業で管理している圃場はオフサイトPPAの候補地になるのでしょうか。

**【牛越副村長】**

中山間総合整備事業で管理している圃場ではオフサイトPPAは実施できません。太陽光パネルを設置する場所は農地転用する必要があり、中山間総合整備事業の管理区域から除外しなければなりません。

村内には色々な意見があって、そのような意見があれば、景観を大切にしたいという考えもありますので、地区ごとにオフサイトPPAの設置場所を話し合い、ご提示いただいて決定したいと考えています。

また、地域計画といって農地の今後の管理について計画を立てなければいけません。農地の管理計画とオフサイトPPAの設置場所を、地域の住民の皆さんと検討して決めていきたいと考えています。

**【質問者】**

計画提案書には、中山間総合整備事業の圃場にも赤印がついていますが、ここは中山間総合整備事業の圃場ではないのでしょうか。

**【牛越副村長】**

計画の段階で提案書に示しただけで、その場所に決定すれば中山間総合整備事業の対象から除いて進めます。あくまでも参考を示した内容であり、具体的な設置場所については今後決定します。

**【村づくり推進室長】**

印を付けた場所は、協定面積外の組合が管理している場所です。現時点では仮の内容ですので、実際の設置場所は地域の皆さんとしっかり調整して進めていきたいと思っています。

**【質問者】**

ぜひ下生坂区の村民も協議に参加できることを望みます。

**【質問者】**

下生坂区雲根地区では、いくさか『創造の森』プロジェクトが行われると思いますが、その内容はこういったもののでしょうか。雲根地区は道がすごく狭かったと思います、そこに工事車両が入っていくのか等が気になりました。

**【村づくり推進室長】**

環境省交付金の対象は、二酸化炭素排出削減効果が見込まれるものに限られており、道の拡幅などの周辺整備は交付金の対象外です。また、環境省交付金以外にも他の補助金等の活用を模索しながら、脱炭素事業に限らず雲根地区の一体的な整備を今後計画していきたいと思います。

**【総務課長】**

この他にも疑問に思う点やご提案などがございましたらぜひお伺いしたいと思いますので、直接担当者にご連絡いただければ幸いです。それでは予定した時間になりますので、村長より本日の説明会に対しお礼を申し上げます。

**【藤澤村長】**

長時間にわたり、お疲れのところ色々なご意見、貴重なご提案をいただきありがとうございました。皆様の意見をできるだけ反映をさせ、ゼロカーボンに向けて頑張っていかなければなりません、全てを取り入れることは不可能だと考えております。皆様からの意見を多く反映させ、2030年民生部分のゼロカーボンを達成することが、現在の村の目標です。

私、皆様のご理解とご協力をいただき、4期16年間で起債（借金）を約20億円減らし、基金（貯金）を約13億円増やすことができました。これらを活用して持続可能な生坂村を構築していきたいと思っています。17年目に入り、少子高齢化・人口減少に歯止めがかかりません。ここで何かをしないと、持続可能な生坂村はないと感じています。

そのためには皆様のご理解とご協力をいただき、なんとかこの事業を達成したいと考えております。多くのご意見をいただき、しっかり検討協議をして進めてまいりたいと思いますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

以上